

温泉地紹介

イエメン，ダムト地域の温泉

Hot Springs in Damt area, Yemen

イエメン技術科学大学アラビア語中東研究所

伊達潤子

Junko DATE

Center for Arabic Language & Eastern Studies, University of Science & Technology, Republic of Yemen

Abstract

Natural hot springs have been utilized as a treatment of illness and for relaxation in many places of the world. This article examines how people use hot springs in a variety of ways, through a case study of the Damt hot springs in the Republic of Yemen. This study was conducted in the Damt area, as well as in other towns in Yemen, from December 2002 to May 2005. The supporting data, as well as general opinions of hot springs and their value, were collected through participant observation and interviews with the public. At the same time, the author has done a simple investigation of scientific characteristics of hot springs.

The Damt hot springs are situated in the mountainous area of Yemen, and it takes about three hours by car from Sana'a, the capital of Yemen, as well as from Aden, another large city in southern Yemen. The Damt hot springs are famous for their water, which is good for people suffering from rheumatism, arthritis, and skin allergies. Yemenis also contend that they sometimes drink this water as a vermifuge.

In addition to the old hot springs which have been famous for their medicinal qualities, there are currently new types of spas in the town of Damt and surrounding areas. These spas include a swimming pool, private baths, a Turkish bath, and hotel facilities with a hot spring. Furthermore, the Yemeni government advocates the promotion of commercial tourism in the Damt hot spring area in order to increase employment opportunities for the public.

Yemenis prefer the Damt hot springs to hot springs in the other areas because all the visitors, from the children to the elderly, can enjoy the atmosphere of both a tourist attraction and the natural health treatment and because the town of Damt is easily accessible from the big cities. The combination of a tourist attraction and spa is an important factor in developing the health resorts in Yemen.

はじめに

世界各地に温泉としての天然資源があり、温泉は多くの人々によって利用されている。その利用方法や位置づけは、社会背景の変遷によって変わっていく（下村，2002）という。イエメン共和国の一般家庭では水浴びが主で、その他には、週1回程度に通う「ハンマーム」が一般に良く知られた入浴方法（佐藤，1994）である。ハンマームとは公衆の蒸し風呂のことで、トルコから輸入された入浴法であると思われる。石の浴室全体をかまどで暖めて、その床に水を撒いて蒸気を発生させる。従ってイエメンの一般の人々にとって、湯に身体を浸ける温泉は、非日常な入浴法であるとい

える。本稿は、イエメン共和国の山岳地帯にある温泉地を事例に、イエメンの人々が温泉をどのように利用しているのかについて、その多様性を探ることが目的である。その調査方法として、参与観察とインタビューという文化人類学的手法を用い、現地においては温泉利用者と温泉経営者、現地以外では温泉経験者と未経験者に意見をもとめ、その結果をまとめた。調査期間は2002年12月から2005年5月までで、その間に4回延べ10日間はダムト温泉地へ赴き、それ以外の期間は温泉地外の町で情報収集を行った。イエメン共和国には、日本のように温泉分析もしくは水質検査ができる施設がないため、筆者が、源泉温度・pH値・知覚的試験とともに、簡易水質分析製品(バックテスト、共立理化学研究所)を持ちこみ、簡単な検査を行った。この検査では、療養泉の定義(甘露寺, 2003)における物質のうち、バックテストで計測出来る硫化物・鉄・銅の含有量についてのみを扱った。泉質の詳細についてさらに知るためには、温泉水をイエメン国外に持ち出して分析する^{注1)}必要がある。

イエメン共和国ダーレア州ダムトの温泉

イエメン共和国は、西は紅海、南はアラビア海に面し、北はサウディアラビア、東はオマーンと接する、アラビア半島の南端にある53万2千平方キロの面積を持つ国である。国内で、温泉湧出地がいくつか報告されている(Fig. 1)が、その利用法や泉質についての詳細は不明である。イエメン共和国は、イエメンアラブ共和国(北イエメン)と、イエメン人民民主共和国(南イエメン)が、1990年に統一した国で、国教はイスラームである。2005年統計推定におけるイエメン共和国の人口は約2187万人(Central Statistical Organization, 2004)である。国の首都であるサナアは、山岳地帯に囲まれた高度2,250mの盆地に位置する。サナアから南東に向かって伸びる山岳地帯を車で3時間ほど下ったところに、ダムトの町がある(Fig. 2)。ダムトには幾つかの噴火口が残っているが、そのうちのひとつは特に大きく、遠くからでも目立つランドマークとなっている。この噴火口には階段状の道がつけられ、頂上まで行けるようになっている。噴火口の周りには、温泉が5つあ

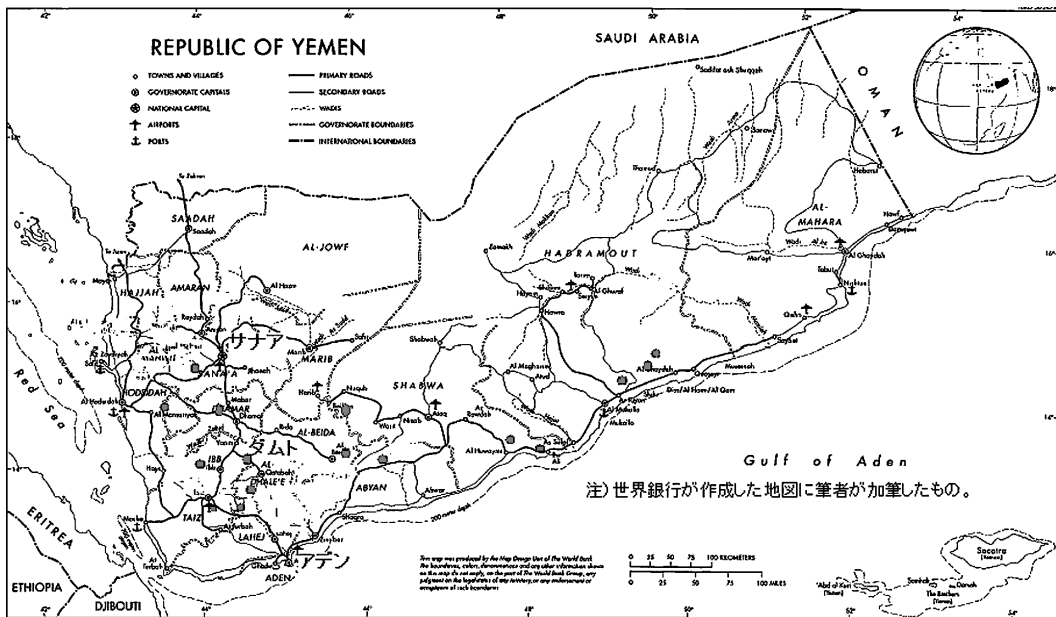


Fig. 1 Map of Republic of Yemen (Each point shows a hot spring in Yemen).



Fig. 2 A distant view of Damt area.

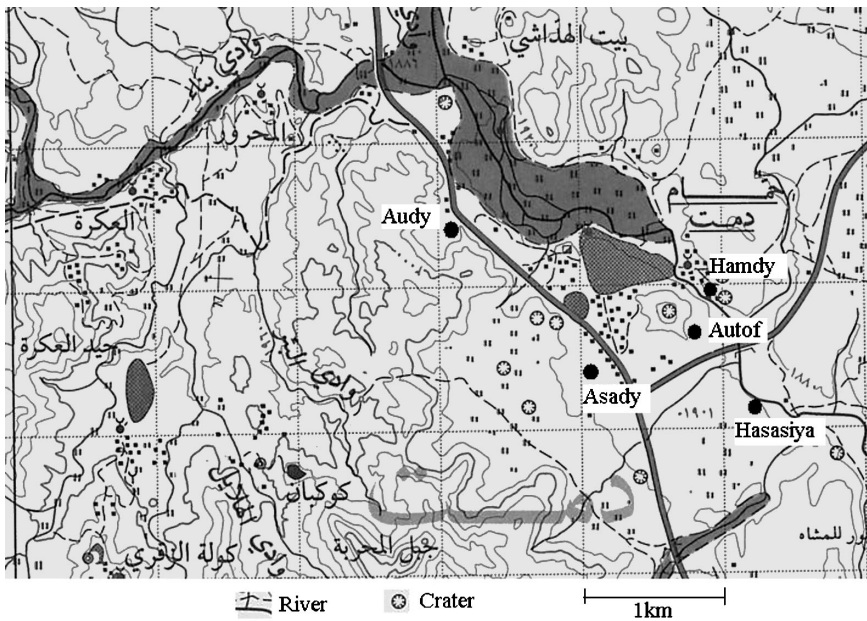


Fig. 3 Geographic map of Damt area.

Table 1 Characteristics of each hot-spring in Damt area

温泉地名	源泉温度	pH 値	総鉄イオン ($\text{Fe}^{2+}/\text{Fe}^{3+}$)	銅イオン (Cu^{2+})	総硫化水素 ($\text{H}_2\text{S}, \text{HS}^-$)
ハムディ	36°C	9	0.05 ppm	検出せず	検出せず
ハサシーヤ	32°C	9	3.5 ppm	検出せず	検出せず
アートフ	44°C	8	5 ppm	検出せず	検出せず
アウディ	37°C	8	10 ppm	検出せず	検出せず
アサディ	46°C	8	1 ppm	検出せず	検出せず

注) パックテストでは金属硫化物の検出はできないため、不明である。

る (Fig. 3). これらの温泉は, 源泉温度に違いはあるが, pH 値は概ね 8 から 9, 微量の鉄 (0.05-10 mg/l) を含む (Table 1). 「ダムトの温泉はマア・キブリーティーヤ (硫黄性の水) だ」というイエメン人も何人かいたが, 総硫化水素は検出できなかった. それぞれの温泉の特徴を次に示す.

(1) ハムディ温泉 (Fig. 4)

噴火口のそばを流れる川沿いにある自噴泉を源泉とする. 源泉温度は 36°C, pH 9 で無色透明. 経営者によると, 年数がわからないほど「古くから」存在する, ダムトでは最古の温泉とのことである. 岩盤のすきまから温泉が流れ出ている. 温泉利用者の話では, この温泉は, 虫下しのために飲むことができる. 毎日飲むことも可能である. また浴用ではリュウマチや関節痛, 皮膚病に効く. 入湯料 30 リアル (約 17 円). この温泉は, 最終調査時点 (2005 年 5 月) には, 大規模な改装工事が行われていた. 後述のアウトディ温泉経営者がこの温泉を買い取り, スイミングプールとマッサージ室を増設, 温泉浴場を 800 万リアル (約 445 万円) 投資して新装するらしい.

(2) ハサシーヤ温泉 (Fig. 5, Fig. 6)

約 40 年前に川沿いに自然に出た自噴泉. 源泉温度 32°C, pH 9 で無色透明. 温泉の古名は「ジャラブ温泉」で, 「ジャラブ」とは疥癬もしくは痒みという意味を持つ. 現在名の「ハサシーヤ」はアレルギーの意であり, どちらの温泉名も, 皮膚炎に効能があることから名付けられた. 眼のかゆみにも良いといわれる. 1~2 週間のあいだ毎日 30 分ほど入浴するとよい. また, この温泉の湯を, 家に持ち帰って肌につけても効能があるようだ. この温泉においてインタビューしたほとんどの人々は, この湯が「皮膚炎に良い」ことを強調した. 入湯料 50 リアル (約 28 円).

(3) アートフ温泉 (Fig. 7)

20 年前に井戸の掘削を行った際に温泉が出てきた. 源泉温度 44°C, pH 8 で無色透明. かすかに硫黄臭様の臭いがあるがはっきりし



Fig. 4 Outside view of Hamdy hot-spring.



Fig. 5 Outside view of Hasasiya hot-spring with the distant view of the biggest crater.

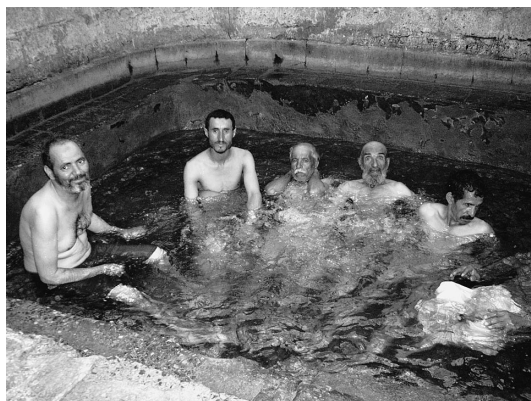


Fig. 6 Yemeni people bathing in Hasasiya hot-spring.

ない。当初は湯量が多かったのですが、外湯と内湯を持っていたが、現在は噴出量が減ったため内湯のみで営業している。リュウマチ・関節痛に効く。飲むと虫下しになるが、飲むのは朝食をとる前がよい。入湯料 50 リアル (約 28 円)。

(4) アサディ温泉 (Fig. 8, Fig. 9)

15 年前に井戸の掘削を行ったとき温泉が出てきた。ポンプは使用せず自然の圧力のみで自噴し続けている。源泉温度 46°C, pH 8 で、やや褐色透明。当初 (1990 年), この湯を利用して男性用ハンマームを開いたが、その後、源泉のある場所にスイミングプール (1992 年), 女性用ハンマーム (1993 年), 温泉個室つきホテル (1997 年) を増設した。プールの温水は午後 8 時頃に排水・清掃された後、そのまま源泉からの温水を溜め置くと、明朝 7 時にはプールが温水で満たされているほどの湧出量である。この温泉の所有者は地方有力者で、ホテル開業時には政府関係者が祝辞を述べたという。さらに規模の大きい温泉ホテルを 2006 年開業に向けて隣に建設中で、このホテルの源泉は、現在のホテルの自噴泉を共用する予定である。ホテル宿泊客に聞くと、この温泉はリュウマチ・アレルギー・神経痛に効用があるという。日帰りのプール入場客は、療養目的ではなく娯楽の目的で来ている者がほとんどで、若年世代が多い。ホテル個室風呂は、1 時間当たり 1,000 リアル (約 556 円) で、ホテル宿泊客 (宿泊料 1 室 4,000 リアル) は無料で使用できる。プール入場料は 50 リアル (約 28 円)。

(5) アウディ温泉 (Fig. 10)

2 年前に温泉目的で掘削して掘り当てた。源泉温度 37°C, pH 8 で無色透明。外湯をもつ他、ハンマーム形式の蒸し風呂がある。普通のハンマームに比べ、このハンマームは蒸気が自然のミネラル分を含むので、リュウマチ・神経痛・腰痛に効果があると、客と支配人は述べた。温泉オーナーは、近隣では有名な富裕ビジネスマンだという。入湯料 50 リアル (約 28 円)。



Fig. 7 Outside view of Autof hot-spring.

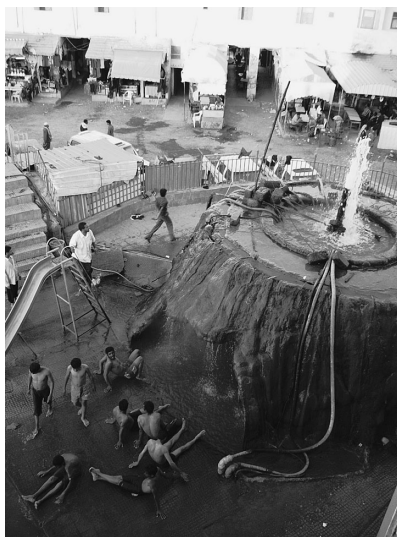


Fig. 8 Source of Asady hot-spring.



Fig. 9 Hot-spring Swimming pool in Asady.



Fig. 10 Outside view of Audy hot-spring.

イエメン政府の観光政策

後発開発途上国^{注2)}であるイエメン共和国は、開発政策においては道路、電気や水などの社会基盤整備が当面の大きな課題となっている。観光政策としては、イエメンが有する歴史的史跡や遺跡、自然環境を利用して観光客を誘致することにより、観光産業による国民の就業率改善を図るのがひとつの目標である。ただし、政府の公的資金をリゾート・史跡観光開発に割くだけの余力はないため、民間機関への働きかけによる商業ベースの観光開発啓発にとどまる傾向が見られる (Ministry of Planning & Development, 2000 a)。

ダムトの町を含むダーレア州の 2005 年推定人口は 47 万 3 千人で農業が主な産業である。政府としては、ダーレア州の社会基盤整備と農業振興が重要な開発支援項目となる。ただし、経済社会開発 5 年計画にはダーレア州の観光政策も併記されており、それによると「ダムトにある鉱泉・温泉の天然治療に関連する、公共のための施設やサービスの充実と地域の活性化を支援すること」(Ministry of Planning & Development, 2000 b) があげられている。2004 年夏に、政府はダムトを「療養・観光保護区」に指定した (Al-Thawrah, 2004)。

温泉地での療養と観光

ダムトの温泉のうち比較的古いハムディとハサシーヤは、自然に自噴している温泉が発見されたこと、自噴温度が 40 度以下であるのが特徴である。特にハサシーヤ温泉は、「皮膚炎に効能のある湯」として療養目的で訪れる人が多い。またその他の温泉においても「腰痛・リュウマチ」などの慢性疼痛に効果があるとの声が多かった。ダムト温泉を訪れたことのない人々にダムトのことを尋ねると、「火山があり、温泉のでるところ」「疼痛があるのでダムト温泉に行ってみよう」との回答が多く得られた。ダムトの温泉は療養湯としてイエメン人に認知されていることが伺われる。

しかし彼らが、ホディダ州やイブ州等の他地域にある温泉と比べてダムトを推奨するポイントは、温泉の効能とは関係なくアクセスの良さや浴場の広さと清潔さであった。ダムトは車で首都サナアから約 3 時間、第 2 の都市アデンからも約 3 時間の距離にあり、道路整備状態も比較的良い。また、療養のための温泉だけでなく、一般客も楽しめることがダムトの大きな特徴となっている。温泉の近くにある噴火口に登ることができ、温泉の湧き出るプールで遊ぶこともできる。また複数の温泉が近接しているので、「温泉めぐり」を楽しむことができる。

この「温泉地での観光」に目をつけたのがアサディやアウディ等の近年の温泉であると考えられる。アサディ温泉はダムトの街中心に位置しており、源泉が吹き出るプールは目立つ場所に作られ、そのまわりをタオルや海水パンツ、石鹸などの温泉グッズを売る小売商が取り巻いている。イエメンの休日である金曜日には、朝から長距離バスツアーの客が次々にプール前の駐車場に入ってくる。一番新しいアウディ温泉は、街中心から少し離れているが、蒸気式ハンマム風呂の施設を作って他温泉との差別化を図っている。

観光客が増えてきた背景には、イエメン国政府がおこなっている社会開発政策の進捗とともに、観光を楽しむ余裕のある国民層が増えてきたことも起因すると考えられる。同時に、ダムトが古く

から療養できる温泉としての価値を認知されていたことが、重要な要素でもある。この温泉地において、療養と観光は二分化して発達してきているわけではない。ダムト温泉は、家族大勢と一緒に日帰りで行ける温泉であり、療養と観光をともに満たせる空間であると考えられる。

おわりに

イエメン共和国ダムトにある単純温泉は、疼痛や皮膚炎に対して効能のある湯として、古くから知られてきた。近年の社会開発により、観光地としての価値も高まりつつある。ダムトを訪れる人達は、療養湯と観光地が渾然一体となった空間に魅力を感じ、また老年から若年までの家族がともに楽しめる内容に価値を見出している。ダムトは国外からの観光客を誘致できるほど整備がされていないのが実情で、このため、しばらくは国内の観光客をターゲットとした温泉地もしくは観光地として、発展していくと思われる。温泉地は、病者のための療養的価値とともに、一般客のための観光価値などが加味されていくことにより、温泉地としての多様性を深めていくと考えられる。

注

- 1) ダムトからサナアは車で3時間、サナアから東京へは飛行便を乗り継いで20時間以上かかるため、泉質が変化する可能性が考えられる。また、たとえばイエメン産ミネラルウォーターの水質分析はフランス資本企業が行っているが、イエメン政府公的機関は存在しない。このため、イエメン国内に水質分析機器はない。ダムト温泉分析については、今後の研究が期待される。
- 2) 国連による開発途上国の分類で、1人当たりGDP 699ドル以下、製造業のGDPに占める割合が10%以下、もしくは成人識字率が20%以下の条件に該当する国のことを、後発開発途上国という。イエメンは、アラブ半島で唯一の後発開発途上国である。

文 献

- Al-Thawrah (2004) : Al-Thawrah, Arabic daily newspaper, No. 14493 (Sat 17 July 2004), 24, Sana'a.
- Central Statistical Organization (2004) : Statistical Year Book 2003, 33, Republic of Yemen, Sana'a.
- 甘露寺泰雄 (2003) : 療養泉についての考察, 温泉工学会誌, **28**, 109-121.
- Ministry of Planning & Development (2000 a) : Summary of the Second Five-year Plan for Economic & Social Development 2001-2005, 9-37, Republic of Yemen, Sana'a.
- Ministry of Planning & Development (2000 b) : Second Five-year Plan for Economic & Social Development 2001-2005 Vol.3 (Arabic language only), 106-108, Republic of Yemen, Sana'a.
- 佐藤 寛 (1994) : イエメン—もうひとつのアラビア, 252-259, アジア経済研究所, 東京.
- 下村彰男 (2002) : 温泉地の滞在空間としての魅力と空間構成, 温泉工学会誌, **28**, 45-52.